

西多摩郡檜原村での地方協創の実践と可能性

西村 慎太郎

はじめに

- ・東京都西多摩郡檜原村で進めている歴史資料の保全・資源化・活用をどのように進めるか、現状と課題、可能性の提示

I：檜原村の概要と自治体史編纂・郷土史

1-1 檜原村の概要

- ・「檜原村は東京都の西に位置し、一部を神奈川県と山梨県に接しています。面積は105.41平方キロメートルとなっており、村の周囲を急峻な山嶺に囲まれています。総面積の93%が林野で平坦地は少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれています。村の中央を標高900メートルから1,000メートルの尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れていて、この川沿いに集落が点在しています。(下線部引用者註)」¹
- ・前近代～近代の檜原村：武蔵七党のひとつ・日奉氏の一族である平山氏の居館 / 幕府領(寛文検地771.264石。その他大嶽社領・吉祥寺領) / 古甲州街道として本宿(もとしゅく)に口留番所(吉野家支配) / 幕府御林の設置及び江戸のエネルギー資源供給(寛政年間炭135,164俵出荷) / 近代以降、養蚕の工場化と木炭生産 / 観光産業へシフト
- ・2019年1月1日現在の人口：1181世帯・2217人²
- ・細貝和寛氏による近年の課題³：①学校統合(1986年3校の中学校統合、1999年8校の小学校統合)、②高齢者(65歳以上)の割合が49%、③自治活動の縮小化、④人口が最盛期の1/3

1-2 檜原村の自治体史編纂⁴

- ・1971年1月21日第1回村史作成準備委員会⇒3月8日答申書を小泉康作村長へ提出
- ・基本方針：①村民の手で編纂、②資料に基づいて確認、③村民に親しめる村史
- ・1972年10月27日 第1回檜原村史編さん委員会開催
⇒三役・議会正副議長・総務委員長・教育委員長・教育長・教育委員3名・文化財専門委員会正副委員長・学識経験者2名・総務課長・教育課長・村史専門委員会正副委員長
- ・1973年1月13日檜原村史編さん専門委員会発足(村内定住者・村内勤務者)
- ・1977年6月執筆開始

¹ 「檜原村の場所(位置・地勢)」(檜原村ホームページ。2016年8月30日更新。2019年2月5日閲覧。http://www.vill.hinohara.tokyo.jp/0000000125.html)

² 『広報ひのはら』478(檜原村役場総務課、2019年)24頁。

³ 細貝和寛「口述史から見える村の地域資源と活用を考える -檜原村神戸地区の事例-」(一般社団法人地域活性化センター全国地域リーダー養成塾修了レポート(第29期)。2019年2月19日閲覧。https://www.jcrd.jp/seminar/2915hosokai.pdf)

⁴ 檜原村史編さん委員会編『檜原村史』(檜原村、1981年)。

・1981年3月30日 『檜原村史』刊行

1-3 檜原村の郷土史研究

※『檜原村の石仏』1~3（檜原村教育委員会、1973年~1977年）や埋蔵文化財報告などの成果もあるが本報告では古文書（アーカイブズ）に限定する

・『檜原村史研究』第1巻1974年11月 / 第2巻1975年11月 / 第3巻1977年3月 / 第4巻1978年3月【表1】

第1巻「編集後記」（宇田篤夫教育長）：「今迄に行われた、関係各位の調査研究を集録し、「檜原村史研究 第一巻」を発行のはこびとなった次第です」

第2巻「序」（小泉康作編集委員会）：「『檜原村史』編纂の中間報告として」

第3巻「序」（小泉康作編集委員会）：「貴重な古文書や民具等の散失も、極めて懸念されるものがあって、本事業の重要かつ緊急性について、ここに改めて申上げ、多大の困難が予想される今後共、関係者の更に一段のご努力をお願いしたい」

第4巻「編集後記」（宇田篤夫教育長）：「この第四巻をもって村史研究集録にピリオドを打ち、愈々この一巻から四巻を基礎に村史編纂にかゝり」

⇒檜原村史編さん専門委員を中心に村史の中間報告的役割を担う

⇒歴史資料の散逸に対する危惧も認識

・『檜原村古文書目録 村の昔を書き残したもの』（檜原村教育委員会、1990年）

1988年5月 檜原村郷土資料館開館⇒歴史資料の収集

1989年4月 檜原村文化財専門委員会に古文書目録編集委託（47文書群）

・歴史学における成果：伊藤好一『近世在方市の構造』（隣人社、1967年）：薪炭生産者と五日市問屋の争論

・瓜生卓造『檜原村紀聞 その風土と人間』（東京書籍、1977年） / 第29回読売文学賞（1978年） / 1996年平凡社ライブラリーとして刊行

・『牛五郎日記』1~8（牛五郎日記研究会、1980年~1989年）：明治19年から始まる宇田牛五郎の日記の翻刻 / 監修：伊藤好一 / 木村龍生・宮田満・増田昭子・酒井耕造

⇒木村による神社合祀研究の過程で、増田が木村へ紹介（1979年）したことにより刊行

Ⅱ：檜原村出野宇田家の歴史と文書群の階層構造

2-1 檜原村出野宇田家の伝来と整理方法【目録】

・伝来：『泰成堂書店古書目録』No.91（2018年）に「武蔵国西多摩郡檜原村文書」（2218）が掲載されており、2018年7月に報告者が購入。

・整理方法：ビニル袋一括の文書を上から取り上げた。但し、継紙が剥離していて順番が錯綜していた文書については早い番号に合わせた。販売段階では「武蔵国西多摩郡檜原村文書」という名称であったが、もともとの所蔵先と目される宇田家を冠することとした。但し、宇田家の文書群は『檜原村古文書目録 村の昔を書き残したもの』に「出畑宇田薫家古文書」として収録されているため、今後変更の可能性はある。

・目録編成：点数は115点と少ないため、編成の必要はないものの、出野組長としての文書集積という特徴を生かすため、「シリーズ・システム」論に基づいた機能を軸に体系的な把握を目指す方法を取らず、組織論的な編成を試みた。また、シリーズ「布達・公用控」が宇田家文書の中で最も多いため、敢えてサブシリーズまで設けた。

2-2 宇田家の歴史

- ・近世出野地区⁵：南谷十組のひとつ。「潤溪の前後に嶮岨の山を帯びて、中ほどを南秋川疏通し、其岸にそひて一條の往来あり、(中略)民家は十九軒なり」寛文7年(1667)7町1反5畝13歩、12名 / 天明2年(1782)8町1反2畝9歩、20名
- ・近代出野地区：17名 / 材木・炭12名
- ・家号：御前(オミヤー) / 本家及び神社と関係のある家⁶
- ・出畑宇田薫家古文書：文書番号1~183(187点) / 天文元年(1532)正月出野村三島権現草創が最も古い資料
- ・近代初頭において出野組長・西光寺檀家惣代・三島神社氏子惣代を務めた宇田八十右衛門が当主。明治4年6反4畝、所有炭林3ヶ所。材木売り上げ明治14年630円、同15年402円53銭(出野地区最高)

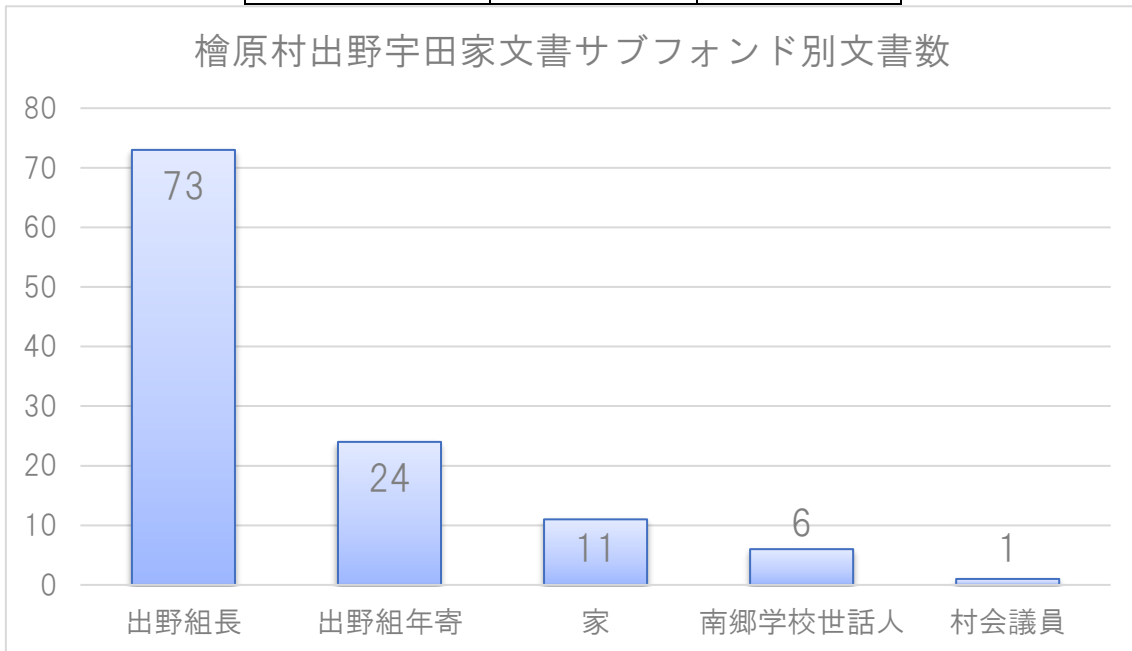
2-3 文書群の階層構造と内容

檜原村宇田家文書階層構造			
サブフォンド	シリーズ	サブシリーズ	
家			
出野組年寄	土地		
	炭		
	信仰		
	触		
	金銭書上		
	火災		
	その他		
出野組組長	小遣		
	書状		
	布達		
	土地		
	領収書		
	人別		
	布達・公用控	布達	
		公用控	
		炭	
		種痘	
		徴兵	
		諸営業	
		地租・地券	
出費			

⁵ 『新編武蔵国風土記稿』6(大日本地誌大系6、雄山閣、1963年)84頁~85頁、伊藤好一『近世在方市の構造』(隣人社、1967年)155頁~179頁。

⁶ 前掲註4『檜原村史』929頁~931頁・947頁。

		養蚕
		墓地
		組長事務
		その他
村会議員		
南郷学校世話人		



- ・サブフォンド「家」：11点（綴2点含む）。点数が少ないため、シリーズ以下は省略。宇田家の家文書に関わるもの。宇田八十右衛門は明治14年に西光寺檀家惣代、明治15年三島神社氏子惣代を務めていたが（文書番号23。以下、括弧内は文書番号）、点数が少ないためサブフォンド「家」に含んだ。明治2年に酒造米高10石で新規に酒造を始めている（53）。明治24年の茅替の傷害事件については『牛五郎日記』にも記載あり（56）。
- ・サブフォンド「出野組年寄」：24点。近世檜原村23組のひとつ出野組として集積された文書。領主などからの文書についてはここに含んだ。シリーズ「土地」は組内田畑に関する絵図と入会山に関する文書。大沢組と神戸組の山桑伐り出し争論が出野組とどのように関わるか不明。シリーズ「薪炭」は幕末から明治初期の炭生産と流通に関わるもの。24の端裏書に「柏木野組」と記されており、出野組以外の文書が混入している可能性や出野組との炭流通の関係が考えられる。シリーズ「触」は代官所から送られた触と請書。シリーズ「信仰」は寺社関係、シリーズ「その他」は前欠のため差出・宛名や奥書のみものを編成した。
- ・サブフォンド「出野組組長」：73点（綴2点含む）。近世檜原村の23組制は明治9年5月2日に字の変更が行われ、13字に改められ、柏木野・出野・下川乗・上川乗組が南郷となった⁷。以後、宇南郷旧出野組となるが、旧出野組長として集積した文書を編成した。当文書群で最も多いサブフォンドであり、その中でもシリーズ「布達・公用控」がほと

⁷ 前掲註4『檜原村史』566頁。

んどを占めるのが特徴である。特に明治 18 年・19 年に檜原村役場から出野組長である宇田八十右衛門に送られた布達とそれをまとめた公用控が多い。1 枚ものの布達であっても綴痕が確認できることから、もともとは綴られていたものと思われる。

- ・サブフォンド「村会議員」1 点：明治 15 年当選人の請書を提出するよう命じられたもの。
- ・サブフォンド「南郷学校世話人」：明治 24 年、「南郷学校」の新築の際、宇田八十右衛門が世話人を務めていたため、新築・開校に関するものを編成した。なお、「南郷学校」は明治 7 年檜原小学校第一分校（克明学校）として開校し、明治 23 年小学校令に伴い、南檜原尋常小学校（南檜原小学校）と改められた⁸。

Ⅲ：檜原村出野宇田家文書資源化後の状況と課題・可能性

3-1 目録を作り終えての可能性

- ・2018 年 12 月檜原村出野宇田家文書目録完成
- ・2018 年 12 月『檜原村史』『檜原村史研究』『檜原村古文書目録 村の昔を書き残したものの』に基づいて資料所在情報作成【表 2】
- ・2019 年 1 月 16 日檜原村教育委員会におけるヒアリング⁹【資料 1】
⇒「檜原村における歴史資料（特に古文書）の保全・活用についての提案 ver.1」

3-2 「檜原村における歴史資料（特に古文書）の保全・活用についての提案 ver.1」策定

- ・2019 年 1 月 25 日「檜原村における歴史資料（特に古文書）の保全・活用についての提案 ver.1」策定 / 教育委員会・郷土資料館へ提案【資料 2】
- ・2019 年 2 月檜原村教育長をはじめとして教育委員会と談合⇒2019 年度に始動決定
- ・2019 年 3 月 10 日シンポジウム「多摩の地域持続をめざした歴史資料の保存と活用」で「西多摩郡檜原村における歴史資料保全と資源化の実践・課題」を報告 / 檜原村教育長・課長・文化財専門員参加
- ・2019 年 5 月 16 日ロードマップ提案【資料 3】

おわりに

- ・檜原村における報告者の歴史実践と地方協創の構築を目指す
⇒基幹研究「地方協創」との比較検討
- ・「ぷらっとこくぶんけん」のイベント計画に含めるか検討中

西村慎太郎

（人間文化研究機構国文学研究資料館准教授）

- ・ E-mail: haniwa28@hotmail.com
- ・ twitter: @nishimurahaniwa
- ・ Facebook: @shintaro.nishimura.52
- ・ Instagram : @shintaro19690703
- ・ <http://resarchmap.jp/nishimurahaniwa>

⁸ 前掲註 4『檜原村史』758 頁～764 頁。

⁹ 2019 年 1 月 16 日、檜原村教育委員会で社会教育係係長と郷土資料館館長代理と聞き取り調査を実施した。